

平成17年度事業計画

1. 委員会について

- 1) 総務委員会は、継続する。(常置)
- 2) 人材委員会は、継続する。(第2年次)
- 3) 国際学術コミュニケーション委員会は、設置要項を変更し継続する。(第2年次)
- 4) 学術情報委員会は、継続する。(常置)
- 5) 経営問題委員会は、継続する。(第2年次)

2. 国立大学図書館協会シンポジウムの開催について

テーマ：

機関リポジトリ：学術コミュニケーション機能回復の新たな方向を探る

趣 旨：

1990年代のSTM雑誌の価格高騰により、一層深まった雑誌の危機は、学術コミュニケーションの機能に深刻な打撃を与えてきた。この間、世界の図書館員は、その機能の回復を目指して、SPARC事業の展開やICOLC活動でグローバルな取り組みを展開してきた。

国内的にも、我が国の大学図書館は、国立大学図書館協会電子ジャーナル・タスクフォースの外国出版社との直接交渉や、国立情報学研究所を中心としたJ-SPARC事業との連携など、学術コミュニケーション機能の回復に向けて、取り組みを進めてきた。しかし、大学予算は、一向に好転しない国の財政事情から、一層厳しさを増すことが予想できる。一方、電子ジャーナル各社は、電子ジャーナル・タスクフォースの交渉により、価格上昇に一定のキャップ制を打ち出しているが、毎年の値上げを常としている。今、私達図書館職員が手を拱いていると、早晩、大学予算の減少と出版価格の高騰は、我が国の学術情報基盤に重大な学術情報コンテンツの空白をもたらす事態を生み出すことになる。

本年度のシンポジウムは、世界的な学術コミュニケーション機能回復の新しい手段として、注目を集めている「機関リポジトリ」に焦点をあて、各大学で何が組み込まれ、どのように取り組むべきかを検討したい。

会 場：

東地区： 筑波大学附属図書館

西地区： 岡山大学附属図書館